

大阪、ホテル稼働率9割

08年度以降初 都内も8割台多く

大都市部のホテルの客室稼働率が高まっている。特に大阪市内は主要13ホテルの4～9月の平均稼働率が91%と比較可能な2008年度以降で初めて9割の台に達した。訪日外国人客に加え、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）などを訪れる国内の旅行者も伸びた。東京都内でも9月の稼働率が8割を超えるホテルが目立つ。

客室稼働率は平均で8割を超えると、平日や土曜日はほぼ満室の状態といわれる。大阪市内は11

のホテルで稼働率が前年実績を上回った。帝国ホテル大阪は6・3割高い87%と上半期では過去最高だった。外国人客の比率が12割上昇の48%と高まっている。

客室数が900を超え大阪新阪急ホテルの稼働率は1・2割上昇して97・5%になった。JR大阪駅に直結するホテルグランヴィア大阪の稼働率も95・6%だった。窓

口ではUSJの入場券の販売枚数が2割増えた。稼働率が高まり客室の価格も上昇している。大阪新阪急ホテルは4～9月の平均が1万4千円強と3割ほど上がった。

大阪市内ではホテルの新設が相次ぐ。NTT都市開発はUSJの近隣にホテルと結婚式場の複合施設を17年までに建てる。ホテルユニバーサルポートを運営するオリックスグループも新しいホテルの建設を計画する。東京でも都心は平均稼働率が80%を超えるホテルは多い。訪日客の利用も追い風に一部には9割台に達するホテルも出てくる。USJ人気が底上げしている「大阪ほどではないものの、都内もホテルの繁忙感強い」（ホテル大手）という。